不良支那人狩

大阪川口署にて大檢擧

今朝迄に六十三名捕ふ

【大阪電話】大阪川口署では七日午後一定の職業もなく且つ將來の生活の安定のない且つ頗る惡性な過激性を帶び不穩の運動を爲す者計りなので直に神戸領事館に照會し調査六十三名は八日午後悉く本國へ送還する事になつたが過般の香港入港以來不良支那人の渡來する者頗る多く皇后行啓も近い際とて尚一層嚴重に警戒を行ふ

一萬圓所持の赤化中佐は

曉民會と親交

美人の肌に附けた宣傳文は警保局へ

此の前の日本郵船會社の歐洲航路の客船を始め各府縣警察部は再び大同團結をして危險思想家の取締運動をしやせぬかと

血眼に

なつて各高等課で暗中飛躍をやつて大警戒をしてゐたが、調査が進捗すると共にその氣配もないので、やつと安心してゐた所へ七日橫濱入港のコレヤ丸で上陸した所謂危險思想家石川縣鹿至郡穴水町出身中村春枝（二）は七日午後八時京濱急行電車で上京

品川驛

まで來た所を密かに橫濱迄出張して尾行してゐた警視廳の樋田、渡邊兩高等係及び神戸水上署から尾行して來た渡邊（十五）は九日午前十一時頃外出の八日夜九時家出し所在不明になつてゐる神戸市葺合區下山口町三〇四〇山崎市太郎たれは何れも家人より捜索願を出して居る（廿四）は自殺の遺書を殘し

勞働をしに來た支那人上陸を拒止

昨日も橫濱で斷つた二十四名

近頃行商の名の下に多數の支那人が本國から續々日本内地に入國する傾向がある、門司、神戸、横濱、殊に橫濱に入國する山口、兵の兩縣では勞働者と認むる支那人の入國を絶對に禁止して居るが、九日午後一時半橫濱に入港した日本郵船會社の

書寫の放火僧のために

追弔劇『狄人』を演ず

社會主義者が集つて

無政府主義研究會員の名刹書寫山本堂に放火し其火中に投じて自殺を遂げた女人堂住職佐伯東谷正澄（卅七）に就ては未だ世間の噂が絶えないが最近姫路地方に社會主義者の跳梁頻々たるに依り或は正澄も是等と關係があつたのではないかと言はれて居る、夫かあらぬか京阪神の同主義者で此頃正澄の追弔會を開く計畫中であつたが、愈百箇日の命日を繰上げ三月下旬右主義者數十名來姫の上正澄の追弔會を花々しく催すに決した、同日は宣傳ビラを撒き式後、放火事件を仕組んだ二人を題する追弔劇を催すべく準備中である因に主義者仲間では正澄の事を『書寫の勇者』と呼んで居る（姫路電話）

サンガーの講演は禁止

女史から無電で

石本男に感謝

サンガー夫人の乘つた大洋丸は十日午前九時橫濱港に入港午後三時頃上陸の豫定で、夫人は、石本巖吉男、渡邊銕藏の山本實彥氏等出迎へ石本男宅に落付く筈だが、石本男は語る『八日、無電で私方に泊るやうにされたいと云つてやつたに對して、厚く感謝するといふ返電があつた、尚詳しい事に内定して居るが、まだ當局の當否は十四日青年會館で開かうとする女史の公開講演は勿論集會も禁止すると言ふ噂もあるので、今回其筋の命令に依り上陸を禁止した次第である」と（橫濱九日電話）

不穩宣傳

犯人の行方

六日夫明姫路の内外に共産主義宣傳の葉書數百枚を配布した犯人につき姫路署で捜索中右は御廚町出身京都市路上社清井秀夫（廿）及び同市エル・エル會員、今小路紀慶（二十）が檢束に際つて宣傳したものと判り取敢ず印刷人柳田某を召喚取調をなし兩名を檢束中であるが

山東丸

にて郵送（二

七）外二十三名の支那人が上海から來着した、彼等は何れも四川省の山奥から日本で警察の行動をするの目的で來たもの、東京府下三河島に行くとて居るが關係事務官は一行を嚴重監視者と認め數名の水上署員を同船に派し斷乎として上陸を禁じた、右に關し桑橫濱署長は語る「支那人の本邦入國に對しては大正七年の外國人入國令を適用し市内で勞働の目的で多數來朝する支那人に對して内務省の訓令に基き制限取締を爲すことは出來る、近頃關西方面に多數支那勞働者が入國して問題の起つた實例もあるので、今回其筋の命令に依り上陸を禁止した次第である」と（橫濱九日電話）

赤化宣傳の三青年

橫濱に歸着を待ち

警視廳に送らる

東洋汽船會社のコレヤ丸は七日午後三時半香港より黃濱港外に着着したが船客中には露國の赤化宣傳と關係深き上海赤化宣傳支部と通じ或る重大使命を帶び等視察係と神奈川縣警察部より特に目を附けられてゐた過激派の二青年があるとて警視廳より二名の高等係刑事が出張して船内に乘込み取調べられた際金一、〇〇〇圓を所持して居り、中門某は長崎官憲に嫌疑を受けた事件の手記は内務省及び警保局に廻附する筈である

大活動

を開始したが

飯盛氏等と上陸から同行した清水一作氏（卅）は神戸官憲の不用意に乘じ巧に姿を晦まして陸路上京した形跡があり、兩同氏は曉民會とも關係あり、極力同氏の行方を捜査中である、又飯盛氏は警視廳で取調べられた際金一、〇〇〇圓を所持して居り、中門某は長崎官憲に嫌疑を受けた事件の手記は内務省及び警保局に廻附する筈である

腰卷の

下に隱匿してゐた赤化宣傳文

約三百枚からなる

長文のものであつた相で飯盛氏の手記は内務省及び警保局に廻附する筈である